

論述ブースト No.15

医師不足・地域医療格差を論じる

—— 偏在・専門化・医療制度を3軸で整理

目標：「医師不足」という問題を「絶対的不足（数の問題）ではなく地理的・診療科的偏在（分布の問題）」として正確に捉え、専門化の過進・制度的要因・解決策を構造的に論じる力を養う。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「医師が足りないのは数を増やせばよいですか？」→「はい」と答える生徒が多い。しかし日本の医師総数はOECDの平均水準に近づきつつある。問題は「偏在」であり、数を増やしても地方・必要診療科に届かなければ解決しない。

核心：医師不足の3軸：①地理的偏在（都市集中）②診療科偏在（産科・小児科・救急の不足）
③構造的要因（専門医制度・訴訟リスク・待遇差）

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 医師不足・地域医療格差・医療制度で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

医師不足・地域医療格差・医療制度では、*偏在・専門化・制度の3軸根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 医師不足・地域医療格差・医療制度で採点者が見ているポイント

「医師偏在の構造的原因を制度・専門化・地域特性の3軸で論じた答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所